



第23回合唱祭 一音心奏

「伝統」を守り抜くこと

副校長 渡邊 泰祐

「伝統」という言葉を今年ほどたくさん目にし、耳にしたこととはなかったでしょう。実行委員会だより、学年・学級だよりにある文字、道徳・学活・総合の時間等、授業中の生徒や先生たちの言葉…。

同月に行われた運動会と同様に、合唱祭も新型コロナウイルス感染拡大防止のために規模や内容を大幅に縮小して実施することとなりました。さらに、一般的な感染症対策に加えて、杉並公会堂からは“舞台では前後2m、左右1mの社会的距離を確保しマスクの着用を奨励する”“収容人数は有効席数の50%を超えてはならない”“座席での声出しやお喋りをしてはならない”“座席に誰が座ったかを主催者が把握しておくこと”等々のガイドラインが示されました。例年どおりの合唱祭の開催を大きな壁が阻み、東原中の良き「伝統」を守り抜くことに誰もが危機感をもっていたのです。

これらのガイドラインに則り、いつもは座席で起立して歌っていた校歌等の全校合唱は取り止めとし、毎年、各クラスの目標や雰囲気を織り込み、生徒たちの手で作られている学級歌の発表も見送りました。また、華やかにトリを飾るはずだった吹奏楽部は、開演前に無観客・非公開でDVD収録のための演奏発表とせざるを得ませんでした。さらに、保護者の皆様のご参観も、各家庭1名のみとさせていただきました。

10月29日(木)、かくして始まった今年度の合唱祭。ソーシャルディスタンスを保って合唱隊形をつ

くり、マスクやマウスシールドを着用しての合唱は、互いの声を聴き合いづらかったり、響きの方向を定めづらかったりといった困難が伴います。しかし、ホールに響き渡る美しい歌声は、むしろマスクやシールドを着けて歌っているとは思えないほどでした。時間的・物理的に限られた中だからこそ、エネルギーを集中・凝縮させ、最高のパフォーマンスを繰り広げることができたのだと思います。

1年生。練習の段階から、東原の音楽「伝統」を必死になって守り抜こうとする先輩たちの姿から多くを学び、本番で初々しくも懸命に歌いあげていました。ホール全体に緊張感の漂う中、1学年合唱を皮切りに今年の合唱祭はスタートしましたが、この時点ですでに私の心は揺さぶられ、涙腺が緩んでいました。

続いて2年生。私は長年、音楽の教員を務めてきましたが、2年生の学年合唱でこんなに上手な『春に』を聴いたことがありません。繊細で丁寧な表情がつくりあげられ、かつダイナミックで幅の広い表現力に、大変感動しました。涙が頬を伝い落ちました。

そして花形の3年生。学年合唱は“圧巻”という言葉に尽きます。晴れの舞台には、東原中学校の最上級生としての自信と、「伝統」を守り抜こうとする姿が見てとれました。教職員、保護者の皆様の心の中に、3年生としての思いや、音楽を通して表現したい気持ちをしっかりと伝えることができました。BRAVO!! 涙腺はついに崩壊し、ハンカチが手放せませんでした。



裏面へ



●吹奏楽部の発表

さながらコロナ禍のために無観客でオンラインライブを行うアーティストのように、当日の午前中、公会堂の舞台にてDVD収録を前提とした発表を行いました。テレビ画面の向こう側でDVDを視聴してくださる方たちに向け、熱の込もった演奏を繰り広げました。非公開ではもったいないほどの素晴らしい演奏でした。

●1年生の発表

初舞台の緊張感が聴き手にも伝わってくるほどでしたが、1年生としては水準の高い、表現の工夫が感じられる好演奏でした。女声も男声も無理のない、響きのある発声ができていました。より深いプレスをして、広いホール全体を響かせようとする意識をもつと、より良い演奏となります。来年、再来年の成長に期待しています。

令賞 1年A組『時を越えて』



●2年生の発表

見事な学年合唱『春に』を披露した2年生。力のある学年だとうことを確信した演奏でした。歌詞に込められた繊細かつ、自分でも説明できないようなうごめく感情の様が、2年生の心の琴線に触れ、曲想をダイナミックに表現していました。学年合唱の素晴らしいところ、各クラスの合唱の水準の高さは言うまでもなく、金賞の甲乙をつけがたかったです。来年、最上級生としての演奏が、今から楽しみです。

金賞

2年A組『あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ』

『一音心奏』というスローガンのもと、“一つ一つの音を心を込めて奏でよう”との思いを込めて開催された、令和2年度 第23回合唱祭。開演から終演まで涙が溢れて止まらなかったのは、どの演奏も聴き手の心を打つ名演だったからだということは言うまでもありませんが、それだけではありません。

今から17年前の平成15年から8年間、私は東原中の音楽科として在籍しましたが、赴任当初の合唱祭は体育館で行う、いわば“大声コンテスト”状態でした。以来、音楽的な質の高いものに引き上げねばと、いくつかの“種”を蒔くことから始めました。「混声四部合唱＆ア・カペラの校歌編曲」「混声合唱団の結成」「吹奏楽部の創部」「学級歌の取組」…。最初は小さな粒でしかなかった音楽の種たちは次々と芽吹き、やがて美しい花を咲かせ、実を結んでいきます。そして、公会堂のリニューアルに合わせて、柿落とし間もない平成18年10月21日、第9回合唱祭から音楽ホールでの開催が実現したのです。

私は確かに、今年の生徒の皆さんのお話を聴いているのですが、瞼の裏には、音楽を盛り上げるためにひたすら走っていた当時の思い出が、次々とフラッシュバックしていました。東原中の音楽のいわば黎明期から脈々と受け継がれてきた「伝統」の発展形を、今年度の合唱祭で存分に享受し、感慨に浸ることができました。このことがもう一つの涙の訳です。閉会式の講評では、涙をこらえるのに精一杯でした。

《11月～12月の主な行事予定》

11月

- 14日（土） 土曜授業（防災について）
※震災救援所訓練→中止
- 16日（月） 朝礼、安全指導、生徒総会
- 18日（水） 期末考査1日目（英語・理科・美術）
- 19日（木） 期末考査2日目（社会・国語・技・家）
- 20日（金） 期末考査3日目（数学・音楽・保体）
- 24日（火） 学力テスト（3年生）
- 25日（水） 校外学習（2年生）【鎌倉方面】
- 27日（金） 読書週間始、校外学習予備日（2年生）
- 30日（月） 生徒総会



●3年生の発表

地球規模の社会問題等を題材にした壮大な『聞こえる』は、3年生がそのまま“NHKコンクール”に舞台を移したとしても入賞できるのではないか？…それぐらい見事な表現でした。加えて演奏された混声四部＆ア・カペラの『校歌』は、まるで大聖堂で演奏される祈りの合唱のように、美しく響き渡りました。コロナ禍を乗り越え、東原の「伝統」を守り抜いた令和2年度の最上級生として、その歴史に輝かしく刻まれることでしょう。

金賞

3年A組『虹』

スローガンのとおり一音一音を大切に、全ての学年・学級、そして吹奏楽部、混声合唱団もみな、心の込もった美しい演奏を発表することができました。しかも、演奏者と鑑賞者が一体となって感動を分かち合い、合唱祭は大成功のうちに閉幕。東原中の総力をあげて「伝統」は守られたのです。

コロナ禍の困難な状況を心一つに乗り越え、合唱祭を無事開催できたこと、社会的距離は保ちつつも仲間の絆を深めることができたこと、そして何より、東原中の良き「伝統」を守り抜いたことに、生徒の皆さんは誇りをもち、さらに舞台の後方や脇から支えてくださった皆様へ、感謝の気持ちも忘れないでほしいと思います。今一度拍手をもって、その頑張りを共に称え合いましょう！



●混声合唱団の発表

今年度の合唱祭のトリを務めた混声合唱団。この混声合唱団は平成15年に、音楽面でのリーダーを育成し東原中全校に音楽の裾野を広げようという目的で、各クラスのパートリーダー+有志による合唱団として結成されたのが始まりです。以来、17年の年月を経た今も、合唱団メンバーの一人一人が東原中の音楽のリーダーとして各クラス、各学年で活躍していることが、模範的で豊かな表現から伝わってきました。その演奏は、まさに東原の音楽の良き「伝統」の象徴です。

12月

- 1日（火） 面接練習始（3年生）
- 2日（水） オリンピック・パラリンピック教育講演会
- 4日（金） 面談週間始
- 7日（月） 朝礼 色覚検査
- 9日（水） 区駅伝大会前検診
- 10日（木） 面談週間終
- 11日（金） 避難訓練 移動教室保護者会（2年生）
- 12日（土） **すぎなみ教育シンポジウム2020**
【高円寺学園会場 又は オンライン】
- 13日（日） **区中学校対抗駅伝大会**【済美山運動場周辺】
- 14日（月） 専門員会・学校委員会